

# 日本図書館情報学会会報

No. 149【Web版】

2013年4月

日本図書館情報学会事務局

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学教育人間科学部教育学科野末研究室内

E-mail: office@jslis.jp

Website: <http://www.jslis.jp/>

ゆうちょ銀行 口座番号=00160-5-0045759 口座名義=日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行 019店 口座番号=当座 0045759 口座名義=日本図書館情報学会

## 2013年度の開始にあたって

会長 根本 彰

本年度は今期執行部の最終年度でもあるので、これまでの学会運営について次の期への引き渡しの考え方も含めて触れさせていただき、また、今年度事業の大枠についても述べておきます。

最初にお詫びしなければならないのは、昨年度の事務手続きにかなりの遅延が生じたことについてです。とくに学会費の請求が年度末に近い2月という時期になり、会員の皆様にご迷惑をおかけしました。これは本会報において事務局長よりの説明があるように、学会事務の一部を委託する手続きに時間がかかったために生じたことです。以前の専門課程に事務局があった時期と比べて、現在の事務局体制は個人ベースになっているので事務の委託が必要であったのですが、その移行自体が遅延の原因になった見通しの悪さについてのご批判は甘んじて受けざるをえません。しかしながら、何とか移行は完了したので本年度以降の遅れは生じない見通しです。

次に、学会の運営に関して2点の懸案事項があったことです。一つは、図書館情報学検定試験の在り方についてです。毎年11月に実施してきた本試験は正式公開して以来、2010年238名、2011年262名、2012年299名と順調に増加してはいますが、今期最終年に目標としてきた受験者数500人にはかなり遠い実情です。科学研究費補助金によって財務的に支えられてきた関係上、科研がなくなった後、学会単独でこれを維持できるかどうかについては困難な見通しもあります。また、もし学会の単独事業として継続するなら、法人化も含めて会員に対する会計的な説明責任を明確にしていくための措置が必要かもしれません。

もう一つは、学会自体の財務において一般会計余剰金が一昨年度末で770万円ほどであり、さらに検定試験特別会計に80万円あったことです。これは、かつてあった特別会計を一般会計に繰り入れたことや学会誌印刷費の引き下げ、検定試験の収入によって生じたものですが、任意団体の余剰金としては大きいものであることは確かです。これについても検定試験を今後どのようにするのかに関わっており、事業を継続するなら一定の基金としてもつことも必要かと思われませんが、そうでない場合の扱いをどうするかについては慎重かつ大胆な事業計画が必要かと思われま

学会は昨年末に「学会運営に関する臨時委員会」を発足させ、上記の2点を中心とした事項について5人のメンバーで議論していただきました。報告は4月下旬に提出されました。理事会としては、その報告を元にして今後の学会運営について今年度末まで検討していく予定です。

さて、今年度については今期の方針に沿って事業を進める予定です。そのなかで検定試験については今年度まで実施することについては全体の下承をえているところです。また研究大会時に学会60周年を記念した催し物を開催できればと考えており、その場に、日韓の図書館情報学の交流の一環として、韓国図書館情報学会会長尹熙潤(ユン・ヒユン)氏を招待しご講演をいただくことを予定しています。さらに、「フロンティアシリーズ」の後継出版物シリーズの編集・発行、『図書館情報学用語辞典』第4版の刊行、春季研究集会・研究大会における優秀発表賞の実施などが新しい事業です。

以上のように、今年度は今期の最終年にふさわしい年にするべく努力する予定です。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

## 2013年春季研究集会のご案内

会員各位

会長 根本 彰

2013年春季研究集会を、筑波大学において、下記の要領で開催いたします。会員の皆様にはふるってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

参加を希望される方は、学会ウェブサイトから、所定の期日までにお申込みくださいますよう、お願いいたします。

### 記

- 主 催： 日本図書館情報学会  
共 催： 筑波大学図書館情報メディア系  
日 時： 2013年5月25日(土) 10:30~17:15  
場 所： 筑波大学 筑波キャンパス 春日エリア 情報メディアユニオン  
<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/access/access.html>  
住所 〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2  
最寄り駅 つくば駅(A1, A2出口)・つくばセンターから徒歩で約10分  
参加費： 正会員1,000円, 学生会員無料, 非会員3,000円  
申込締切： 2013年5月17日(土)  
申 込 先： 学会ウェブサイト (<http://www.jslis.jp/>) からリンクをたどるか、申し込みフォーム (<https://www.surveymonkey.com/s/JSLIS2013>) に直接、アクセスしてください。

2013年春季研究集会(筑波大学)プログラム

開始時刻	第一会場	第二会場
10:30~11:00	雪嶋宏一(早稲田大学) コンラート・ゲンスナー『万有書誌』に収録された印刷本について	ユンユラ(Dong-Eui University) 韓国における学校図書館の協力型読書プログラムの開発: 読書メンタリングプログラムを中心に
11:00~11:30	木村麻衣子(慶應義塾大学大学院) 韓国, 日本, 香港, 台湾における韓国人・団体著者名典拠データの表記	崔英姫(東京大学大学院) 韓国における司書教諭の任用制度の特徴及び現況
11:30~12:00	谷口祥一(慶應義塾大学) RDAにおける利用者タスク: RDAモデルの確立を目指して	平久江祐司(筑波大学) 中島正明(安田女子大学) 小竹諒(筑波大学大学院) 高等学校図書館担当者の職務意識の特徴: 司書教諭と学校司書の比較調査を基に
12:00~13:00	昼休み(1時間)	
13:00~13:30	安形麻理(慶應義塾大学) 小島浩之(東京大学大学院) 上田修一(前慶應義塾大学) 佐野千絵(東京文化財研究所) 矢野正隆(東京大学大学院) 日本の図書館におけるマイクロフィルムの保存の現状: 質問紙による大学図書館と都道府県立図書館の悉皆調査から	高橋恵美子(東京大学大学院) 1950年から2000年にかけての公立高校学校司書の図書館実践: 教科との連携と「図書館の自由」の視点から
13:30~14:00	伴周一(日本大学) 大久保尚紀(日本大学) 岡田悟志(日本大学) コンパクト箱形書籍・資料デジタルアーカイブ作成装置の研究開発: 誰でも使えて・書籍撮影と同時にデータ処理を行う装置の開発をめざして	西巻悦子(筑波大学大学院) 平久江祐司(筑波大学) カリキュラム開発における学校図書館の位置づけの在り方: 中学校・高等学校における特色ある学校づくりの事例から
14:00~14:30	林賢紀(農林水産省 / 筑波大学大学院) 阪口哲男(筑波大学) 複数館で共用する図書館システムにおける配架場所記述の検討	大作光子(筑波大学大学院) 探究型学習における児童生徒の学習過程及び学習到達度の可視化へ向けた ルーブリックの作成と検証
14:30~15:00	下山佳那子(筑波大学大学院) 公立図書館評価の実用性に関する考察: 文献調査をもとに	長谷川幸代(中央大学大学院) 図書館と書店のイメージに関する調査と分析
15:00~15:15	休憩(15分)	
15:15~15:45	木下奏(筑波大学大学院) 松村敦(筑波大学) 宇陀則彦(筑波大学) 公共図書館職員のモチベーションに関する研究	倉田敬子(慶應義塾大学) 上田修一(前慶應義塾大学) 日本における学術雑誌電子化の状況と阻害要因: 学会誌と大学紀要を対象とした郵送調査
15:45~16:15	石原眞理(神奈川県立図書館) 都道府県立図書館の目指すもの: 各図書館の運営方針等の分析を通して探る	栗山正光(常磐大学) オープンアクセス政策の動向: 欧米と日本の比較
16:15~16:45	葉袋秀樹(前筑波大学) 「役に立つ社会教育」と公共図書館	佐藤翔(同志社大学) 吉田光男(筑波大学大学院) 逸村裕(筑波大学) Wikipedia日本語版からの学術論文の引用状況
16:45~17:15	佐々木美緒(政策研究大学院大学) 公立図書館における指定管理者制度運用における実態調査	西浦ミナ子(筑波大学大学院) 逸村裕(筑波大学) 学生利用者の特徴からみた図書館サービスの検討

\* 所属の表示は、教職員(常勤/非常勤)・院生・学部生等を問わず、機関名(「大学」等)のみとしてあります。

# 研究助成の公募

研究委員会

本学会では、図書館情報学振興のために、会員が自発的に計画した研究調査の遂行ならびにその結果の取りまとめに要する経費の一部を助成する事業を実施しています。今年度は次の要領で募集を行います。ふるってご応募ください。

## 記

### 1. 助成額

総額 30 万円を限度として、1 ないし 2 件に交付予定。

### 2. 応募条件

- a. 本学会の個人会員が、個人もしくはグループで行う研究であること。ただし、グループ研究の場合、研究代表者が個人会員であれば、研究分担者が会員である必要はない。なお、科研費等の公的研究助成の取得が難しい場合を配慮するので、例えば「大学院生であるため科研費の応募資格がない」などの事情があれば、申込書の所定欄に記入すること。
- b. 2014 年 3 月 31 日まで研究を終了させていること。
- c. 2014 年 3 月 31 日までに所定の用紙によって「研究成果報告書」および「会計報告書」を提出すること。ただし、領収書の提出は不要である。
- d. 研究終了後 3 年以内（2017 年 3 月 31 日まで）に『日本図書館情報学会誌』に原著論文として投稿すること。

### 3. 選考

「研究費助成申込書」に基づいて研究委員会が選考する。結果は応募者に直接通知するとともに、会報に掲載する。

### 4. 応募方法

別紙「図書館情報学会研究費助成申込書」に必要事項を記入の上、下記の宛先に郵便または電子メールで送付すること。申込書は学会ホームページから MS-Word ファイルおよび PDF ファイルで入手可能である。電子メールの場合は、添付ファイルで送付すること。電子ファイルでの提出が望ましい。

- ・ 郵送先：〒180-8629 東京都武蔵野市境 5-24-10  
    亜細亜大学 安形輝 気付  
    日本図書館情報学会研究委員会
- ・ 電子メール：agata@asia-u.ac.jp
- ・ 学会ホームページ：http://www.jslis.jp/

### 5. 応募締切

2013 年 6 月 1 日（水）必着

## 学会賞・学会奨励賞・学会論文賞候補の募集

学会賞選考委員会

2013年度の日本図書館情報学会賞、奨励賞、論文賞の候補を下記のとおり、募集いたします。明朗で透明度の高い選考過程とするために、またこれもひとつのアカデミックフェスティバル、お祭りですから、会員各位の選考過程への積極的参加を歓迎します。応募論文を含む下記の選考対象論文等につき、自薦・他薦を含む推薦をお願いいたします。そのときには、氏名を明示のうえ、簡潔で結構ですから、推薦理由を付記してください。

### 記

#### 1. 賞の種類

- (1) 日本図書館情報学会賞
- (2) 日本図書館情報学会奨励賞
- (3) 日本図書館情報学会論文賞

#### 2. 選考対象

- (1) 日本図書館情報学会賞：本学会の正会員
- (2) 日本図書館情報学会奨励賞：本学会の正会員・学生会員
- (3) 日本図書館情報学会論文賞：本学会の正会員・学生会員を含む著者による論文

#### 3. 選考対象業績

- (1) 日本図書館情報学会賞：正会員によって2011年度もしくは2012年度に日本語もしくは英語で発表された図書および論文
- (2) 日本図書館情報学会奨励賞
  - a. 『日本図書館情報学会誌』第58巻第2号から第59巻第1号までに掲載された、本学会正会員もしくは学生会員による論文
  - b. その他の研究業績については、学会賞に準じ、本学会正会員により推薦されたもの
- (3) 日本図書館情報学会論文賞：『日本図書館情報学会誌』第58巻第2号から第59巻第1号までに掲載された、本学会正会員もしくは学生会員を含む著者による論文

#### 4. 選考

会員諸氏の推薦等を考慮しつつ、公表されたメンバーより構成される学会賞選考委員会において審査し、理事会の承認を得て決定する。

#### 5. 授賞

2013年度臨時総会において授賞式を行う。

#### 6. 応募・推薦方法

以下の事項を記載した「学会賞（奨励賞）応募（推薦）用紙」（所定の書式はないが、A4判横書きが望ましい）を7月19日（金）までに必着で郵送ないしは電子メールにて送付すること。受信したことは連絡する。

なお、応募者・推薦者の氏名は非公開とするが、選考過程を明らかにする範囲で、匿名での推薦過程・

事情には一定程度言及することがあり得るので、責任をもって推薦すること。

- a. 著者名
- b. 著作名（書名，論題名等）
- c. 出版社／収録雑誌名・巻・号・頁
- d. 応募（推薦）者連絡先（電子メールアドレス明記）
- e. 応募・推薦理由

#### 7. 応募・推薦先

- ・ 郵送：〒594-1198 大阪府和泉市まなび野 1-1  
桃山学院大学経営学部 山本順一 気付  
日本図書館情報学会学会賞選考委員会
- ・ 電子メール：june01@andrew.ac.jp（学会賞選考委員長宛）

## 事務局体制の整備について

事務局長

今般、事務局業務の一部委託に伴い、会員の皆さまにご迷惑とご心配、お手数をおかけしたことに ついて、まずもって改めて深くお詫びを申し上げます。本誌やメールマガジン、ウェブサイトでご説明し てまいりましたことと重複するところもありますが、以下、経緯と展望を記させていただきます。

会員の皆さまには、会費請求や定例（通信）総会の開催が例年より遅れたこと、住所等の変更や新入 会・退会の手続き（データ更新）をお待ちいただく場合があったことなどにより、ご不便をおかけいた しました。事務局業務の一部委託に伴い、通常の業務を遂行しつつ、引継ぎ作業（関連データ・書類の 整理・整備など）にあたってまいりましたが、作業時間が予想を超えるものとなってしまったことが主 たる原因です。見通しの甘さについては、重ねてお詫びをするほかなく、深く反省しております。

ご存じのとおり、当学会の事務局には専任・専従の事務局員はおらず、会長の指名した学会員が事務 局長を引き受け、事務局員（アルバイト）を依頼して業務をこなす、という体制を取っています。今期 は個人研究室に事務局を置いているため、セキュリティ上、事務局員が作業を行うのは、事務局長本人 が在室できる時間に限られています（おおむね週 1 回程度）。個人情報などを扱うため、データを持ち出 して自宅などで作業をすることは、原則としてできません。加えて、今期は事務局員の交替が 2 回あり、 現在、事務局員をお願いしている 3 人目のかたは繁忙期に引き継ぎとなったこともあり、“走りながら” 業務をこなしていただいているというのが正直なところです。事務局長自身の能力と経験の不足も手伝 って、従来よりも相当程度、事務局業務に時間がかかってしまったものと受け止めております。

事務局では、総会・理事会・常任理事会などの準備・運営（定例総会の投票管理を含む）、交通費・印 刷費・郵送費などの金銭出納（支払や請求書・領収書管理など）、会員データ管理（入会・退会処理を含 む）、学会誌の発送手配や会報の編集・印刷・発送手配、学会誌購読者への対応（発注受付・発送手配・ 請求など）、会費の請求・納付確認・記録管理、研究大会・春季研究集会事務局との連絡対応、各種問合 せ・依頼への対応（文献寄贈やアンケート・原稿依頼など）、各種文書・記録の保管・管理など、さまざ まな業務にあたっております。歴代の事務局長に敬意を表しつつ申し上げれば、かなりの作業量に上る といえると思います。今後、さまざまな環境にある会員が事務局長を引き受けられるようにするため にも、定型的業務を外部委託することが最善であると考えました。各種手続きが迅速に処理できるほか、 事務局長・事務局員の交替に伴う人選・引継ぎのコストも軽減され、学会の窓口である事務局の連絡先

(住所など)も固定することが可能となります。業務委託料は、相応の仕事をアルバイトでお願いするよりも同等か安価であるという試算結果も出ています。

昨年度の総会で提案し、承認いただいたことを受けて、委託業者として大学生協学会支援センター(東京都杉並区和田3-30-22)を選定しました。一昨年度以来、対面およびメールでの相談・打合せを重ね、昨年10月から委託を開始することとしました(会報147号)。ところが、引継ぎ作業が遅れたため、学会誌(2012年12月)発送と会費請求(督促を含む)については現事務局で、学会誌(2013年3月)発送と会員データ確認は委託先で行うことを本年2月に確認し、すでに実行に移されています。特に会費請求については、例年は6月に行なっていましたが、昨年度はそれより遅れる旨を会報146号にてお知らせし、会報147号では10月以降となる(未納分がある場合はあわせて請求)とご案内しました。実際にはさらに時間を要したため、メールマガジンやウェブサイトでさらに遅れる旨のお詫びと、お問合せをちょうだいできれば個々に対応(請求書の送付)をさせていただき、旨のご案内をいたしました(実際に個別に対応をいたしました)。その後、未発送分であった請求書を2月にすべて発送いたしました。

皆さまにご迷惑とご心配、お手数をおかけしましたことについて、重ねてお詫びを申し上げます。なお、今年度については、次のような体制で事務局業務にあたることとなっております。しばらくのあいだは、両方で相談・連携しながら対応する業務も生じるため、若干、お待たせしてしまう場合があるかもしれませんが、何とぞご了承ください。なお、今年度半ばをメドに、事務局の連絡先(窓口)を委託業者に一本化する予定です。現在は実施できていない電話・ファックスでの対応も可能となります。なお、メールアドレスは変更ありません(事務局共有アドレスのため)。

- ・ 現事務局……会報作成、予算・決算、金銭出納、各種問合せ(判断を含むもの)対応など
- ・ 委託業者……会員データ維持・管理(入退会を含む)、学会誌・会報発送、学会誌販売、各種問合せ(判断を含まないもの)対応など

なお、すでにお知らせしたとおり、事務局員の増員を図るなど、引き続き体制整備に努めております。今後ともご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。ご意見やご質問などがございましたら、事務局([office@jslis.jp](mailto:office@jslis.jp))までご連絡ください。(事務局長)

## 委員会・事務局より

### 『日本図書館情報学会誌』投稿募集

『日本図書館情報学会誌』の投稿先は以下の通りです。投稿は随時、受け付けています。投稿に際しては「投稿規程」と「執筆要綱」をご参照ください。(編集委員会)

- ・ 投稿先：日本図書館情報学会編集委員会 ([journal@jslis.jp](mailto:journal@jslis.jp))
- ・ 投稿規程：[http://www.jslis.jp/journal/c\\_reg\\_100301.pdf](http://www.jslis.jp/journal/c_reg_100301.pdf)
- ・ 執筆要綱：[http://www.jslis.jp/journal/w\\_out\\_100601.pdf](http://www.jslis.jp/journal/w_out_100601.pdf)

### 会員情報変更・退会および年会費納入について

住所等の変更については、学会ウェブサイトの「会員情報変更届」([http://www.jslis.jp/membership\\_3.html](http://www.jslis.jp/membership_3.html))にご記入いただき、事務局までお送りください。退会については特に書式はありませんので、退会理由を併記のうえ、事務局までご連絡ください。5月末日(必着)までに届出があった場合には、前年度末での退会として取り扱います。なお、現在、会員情報の確認作業を行なっ

います。もしも「登録事項確認のお願い」が未着の場合には下記までお問合せください。

また、2012年度までの会費が未納の場合はご納入をお願いいたします。2011年度までの会費に未納分がある場合は個別にご連絡を差し上げております。なお、今年度の会費は6月末発行の『日本図書館情報学会誌』とともにご請求予定です。不明な点は下記までお問合せください。 (事務局)

・会員情報や会費に関するお問合せ先

日本図書館情報学会事務局 会員・会費担当 (担当：井手)

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内

Tel: 03-5307-1175 Fax: 03-5307-1196 E-mail: office@jslis.jp

#### メールマガジンについて

総務委員会ではメールマガジンを随時、発行しています。講読・掲載希望の方は、総務委員会まで電子メール (somu@jslis.jp) にてご連絡ください。 (総務委員会)

### 学会受領資料

- ・西河内靖泰『知をひらく：「図書館の自由」を求めて』青灯社，2011
- ・薬師院はるみ『名古屋市の1区1館計画がたどった道：図書館先進地の誕生とその後』八千代出版，2012
- ・加藤信哉・小山憲司編訳『ラーニング・コモンズ：大学図書館の新しいかたち』勁草書房，2012
- ・金沢みどり『児童サービス論』（ライブラリー図書館情報学7）学文社，2012
- ・Kyo Kageura. The Quantitative Analysis of the Dynamics and Structure of Terminology. (Terminology and Lexicography Research and Practice 15) John Benjamins Publishing Company, 2012
- ・中村伸子『学校図書館、まずはこれから』（はじめよう学校図書館1）全国学校図書館協議会，2012（以下同じ）／高橋知尚『学校図書館メディアの選びかた』（同2）／竹村和子『その蔵書、使えますか？：図書の更新のすすめ』（同3）／大平睦美『学校図書館をデザインする：メディアの分類と配置』（同4）／福田孝子『初めての読書指導：アイデア25〈小学校編〉』（同5）
- ・長谷川昭子『専門図書館における現職者教育と個人の能力開発』風間書房，2013
- ・上田修一・倉田敬子編著『図書館情報学』勁草書房，2013
- ・平井孝典『公文書管理と情報アクセス：国立大学法人小樽商科大学の「緑丘アーカイブズ」』世界思想社，2013

※図書のみ掲載しています